



KENYA

# ケニアの学校教育と 言語事情から考えること

蒔田 恵子

岡山県立岡山南高等学校

◆実践教科 英語（リーディング）

◆時間数

2時間（カリキュラム上、まとまった時間はなかなか取れないので、普通の授業の中で5～10分程度、手紙を読んだり写真を見せて話をしたり課題を与えたりして、ケニアについての情報を与えておいた）

◆対象学年

2、3学年 ◆対象人数 14人～40人の4クラス

## カリキュラム

### ■実践の目的

- ・ケニアの言語事情から、途上国の抱える問題を、1学期に教科書で学んだシンガポール・フィリピンの例と比較して考える。
- ・ケニアの学校教育（特に英語教育）について学び、日本との違いを考える。

### ここが素晴らしい！

手紙でケニアの生徒とコミュニケーションすることで、教員が自身の視点で一方的に語るよりも親しみを感じることができた。言語問題を通してアイデンティティーや貧困を考えている点が深くよかった。

- ・手紙の交換を手助けしてくれた協力隊員たちからのメッセージをVTRで見て、ボランティア活動の意義について考える。
- ・学んだことを元に自分は何をすればいいのか考える。

### ■授業の構成

時限・テーマ・ねらい		方法・内容	使用教材
普通の授業の一部で	ケニア人からの手紙を読む	ケニア人からの手紙を読んでケニアを知る（地理、気候、食べ物、教育制度、特産物など）	手紙 写真
	青年海外協力隊・シニアボランティア・JICA専門家・NGOなどの活躍	さだまさしの「風に立つライオン」をALTが理解できるように英訳 協力隊員からのメッセージを聞く	CD プリント VTR
	スワヒリ語に親しむ	絵葉書に使われているスワヒリ語 ジャンボ、アサンテサーナの歌を歌う	絵葉書 CD
	ケニアの小学校のテストをやってみる	英語（2005年統一テスト）・数学（7年生3学期用）の問題にチャレンジ	プリント
1時間目 ケニアの学校教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナジャリ・スクールと小学校の様子をVTRで見る</li> <li>・ケニアの教科書を見る</li> <li>・数学の問題の答え合わせ</li> <li>・英語で授業が行われることの問題点</li> </ul>	VTR プリント ケニアの教科書	
2時間目 ケニアの言語事情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケニアクイズ 10問</li> <li>・カンガについての英文を表にまとめる カンガを着る カンガに書かれているスワヒリ語</li> <li>・ケニアの言語事情を自分の立場に置き換えて考える</li> <li>・教科書のシンガポール・フィリピンの例との比較・考察</li> </ul>	プリント パワーポイント キコイ カンガ	

## 授業の詳細

### 授業の一部で

#### ・ケニア人からの手紙を読む

1学期に生徒にケニアの高校生宛に手紙を書かせて、50通を研修に持参したが、セカンダリースクールは休暇中で訪問のチャンスがなかった為、エガトン大学の梶川シニアボランティア、カブロング・ポリテクニクの石垣隊員、エイズ対策で病院勤務の遠山隊員と松岡隊員に預けて、高校生に近い年齢の若者に渡すように頼んだ。

樋口隊員の勤めるエケルボ小学校を訪問した際、担任されている7年生から手紙をもらった。(小学生といっても7・8年生になると英語力は日本の高校生並みかそれ以上であるので、彼らやアナジャリ・スクールの生徒にも渡せばよかったと思った。)

実はエガトン大学も休暇中だったが、梶川先生のご尽力で4人の生徒からの返事を持って帰ることが出来た。9月の授業ではこの4通をコピーし、生徒に読ませた。自己紹介に始まり、ケニアの地理や、気候、食べ物、教育制度、特産物などの紹介、また将来の夢などをわかりやすい英語(一部日本語)で書いてあるので、私の見てきた話も織り交ぜ、撮ってきた写真も同時に少しずつ見せていった。現地の人書いたものを読むことで単に私が説明するよりも、ケニアに親しみを感じる事が出来たと思う。

10月になって石垣隊員から20通の返事が送られてきた。個人宛ではあるが、皆で共有して読むことにし、受け取った本人が和訳し、原本と写真(石垣隊員が個人写真を撮って同封してくれた)をコピーしてそれぞれの教室に掲示した。癖字の読みにくいものも多く、暗号を解読するように読んでいたが、何とか理解できた様子で、石垣隊員の任期が終わる11月末までに返事を書いて送り返した。

また、松岡隊員からも新たに返事を送ってもらったので同様の扱いにした。



カブロング・ポリテクニクの生徒からの手紙

#### 生徒の反応・感想

- ・自分の国の将来を真剣に考えているので驚いた。
- ・自分の目標をしっかりと持っていて、日本語も頑張っているのが素晴らしい。
- ・ケニア人の生活の様子がよく分かった。
- ・日本のことはあまり知らないようなので、意外だった。

#### ・青年海外協力隊・シニアボランティア・JICA 専門家、NGOなどの活躍

①さだまさしの「風に立つライオン」をALTと共に聞かせ、英語で質問をする。(歌詞の中に出てくるナイロビ、フラミンゴ、ビクトリア湖などを写真で見せてイメージを沸かせる。)

1. Who is the singer of this song ?
2. Who wrote this letter ?
3. This is the answer letter. Who did he receive the letter from ?
4. Where does the writer live now ?
5. How long has he lived there ?
6. What did the writer see there ?
7. What is his occupation ?
8. Why did he write 'Omedetou' at the end of this letter ?

日本語を勉強中のALTにとってはこの歌詞の理解は難しく、特に8番の答えは分からないようなので、彼の為にクラス全員で分担して歌詞をわかりやすく英訳することを課題にする。

歌の主人公の「僕」の「しあわせ」は何かを考える。

②手紙でお世話になった梶川さん、石垣さんたちが現地ですどのような活動をしているのか、VTRを見せて説明する。それ以外の隊員やNGOの人たちのインタビュー・メッセージのVTRも見せて、ケニアでボランティア活動をしている人たちの活躍を示す。

③歌の主人公の「僕」、私がケニアで出会った人たちは、なぜボランティア活動をするのか、その意義を考えさせる。

#### 生徒の反応・感想

- ・ボランティアは開発途上国の人の為になるだけでなく自分自身の幸福につながるのだらう。

- ・ケニアで働いている人達はみんな自信があつて生き生きしている。
- ・自分も将来はぜひ青年海外協力隊に応募して活動したい。
- ・ケニアに行くには英語だけでなくスワヒリ語と部族語も覚えるなんて大変そう。現地に行けば自分もしゃべれるようになるのだろうか？
- ・高校時代の「今」、何かを見つけて一生懸命生きることが大切だというメッセージ、心に響いた。自分の人生を如何に生きるか考えなくては。

### ・スワヒリ語に親しむ

絵葉書に書かれている簡単なスワヒリ語（ジャンボ・ボレボレ・アサンテサーナ・ハクナマタータなど）を教え、それが歌詞になっている歌2曲を聞かせて一緒に歌う。ケニアの子どもは幼稚園からスワヒリ語や英語を公用語として学ぶことを示す。

### 生徒の反応・感想

- ・スワヒリ語は発音が簡単で日本語みたいだ。
- ・メロディーが単調で繰り返しが多いのですぐに覚えることができた。どこかで聞いたことがあるような懐かしい感じ。
- ・スワヒリ語と英語の両方を覚えるのはこんがらがって大変ではないのかな？

### ・ケニアの小学校のテストをやってみる

樋口隊員にもらった小学校7年生の数学の問題、ケニア小学校の統一テストを課題として与え、チャレンジさせる。(50問 選択肢問題)

### 生徒の反応・感想

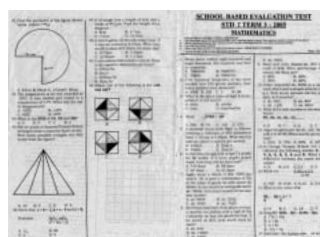
- ・英語の問題は難しい。センター試験みたいだ。
- ・数学は簡単なものも多いけれど、知らない英語も多く辞書を引かなければ問題も読めなかった。解けるとおもしろかった。

いう詩と聖書の一節を暗誦しているところは、後で文字で示してもう一度見せる。教師の話す言葉もすべて英語であること、高学年になると英語が大変流暢になることに注目させる。

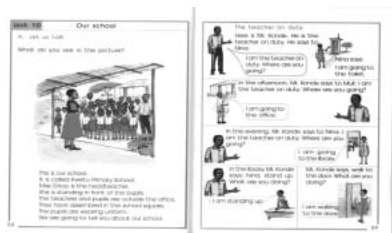
2. ケニアの教科書はスワヒリ語の教科書以外すべて英語で書かれていることを実物で示す。
3. 課題にしていた数学の問題の答え合わせ。
4. 2003年から小学校は無償になったが、貧困のため制服や学用品が買えなくて途中で止めてしまう生徒も多いが、一方で言葉の問題でついでいけずドロップアウトしている生徒も多いという実態を知らせ、考えさせる。

### 生徒の反応・感想

- ・幼稚園からあんなに上手に英語を話せてうらやましい。日本も早期英語教育を早く始めるべきだ。
- ・子どもたちが一生懸命勉強している姿に感心した。
- ・日本は服も教科書も十分あるのに、彼らほど積極的に勉強していないのが恥ずかしい。
- ・小学校1年の教科書が日本の中学校1年の教科書のレベルと同じなので驚いた。ついていけない生徒が出るのも無理はないと思う。
- ・小学校から全国统一テストがあるなんて、ケニアはとても教育熱心な国なのだと思う。
- ・貧困のために勉強の機会を奪われるのはかわいそう。



小学校7年生の数学問題



小学校1年生の英語の教科書

## 1 時限目 ケニアの学校教育

1. アナジャリ・スクールとエケルボ小学校のVTRを見せる。特に幼稚園児がEducationと

## 2 時限目 ケニアの言語事情

1. ケニアクイズ T or F 10問  
(これまでケニアに関して断片的に話してきたことをどの程度覚えているか確認)
  1. The average temperature of Nairobi, the capital of Kenya, is 18°C.
  2. The number of Japanese people living in Kenya now is about 10,000.
  3. The number of Kenyan people living in Japan now is about 400.
  4. There are more than 40 tribes in Kenya, and the biggest one is Maasai.
  5. The population of Japan is about 130,000,000, but the population of Kenya is about 34,000,000.
  6. About 70 % of Kenyan people are Muslim.
  7. About 80% of cars in Kenya are made in Japan.
  8. The colors of the Kenyan flag are black, red, green and white, but the black means the Kenyan people.
  9. The life expectancy from birth in Kenya is 48 years old.
  10. Kenyan people prefer coffee to tea.

### 2. カンガとスワヒリ語

宿題にしていたカンガとキコイの説明文を表にしてまとめる。実物を見せ、パワーポイントの写真を参考に3人の生徒に着せる。いろいろな使い道が出来ること(例えば、赤ちゃんをおんぶする布)を、写真を見せて示す。

カンガに書いてある文字に注目させ、これは何語でどんな意味の言葉が書いてあるか推測させる。PENDO SIBADILI KWA UDI NA UVUMBAはスワヒリ語で My love cannot change even at smell of incense. (I am not changing my love no matter what happens. たとえ何が起こっても私の愛は変わらない。)の意味であり、夫婦間、恋人間での愛の言葉である。

なぜ、英語でなくスワヒリ語ばかりで書かれているのか? 本当に伝えたい事を伝えるのに最適の言葉は何語だろうか?



カンガ着用



授業風景

3. ケニア人の置かれている状況を自分に置き換えてみる。  
部族語：岡山弁  
スワヒリ語：標準語  
英語：英語
4. 1学期に教科書で学んだシンガポール（フィリピン）の例を思い出し、3言語の同時使用のよい点、悪い点について考えレポートにまとめさせる。
5. 同じく1学期に教科書で学んだケニアの17歳の少女（アリソン）の書いたメッセージをもう一度読んでみる。

### 生徒の反応・感想

- ・カンガを私も着てみたかった。色彩的にはキコイの方が好きだけど、男性が派手な色を身に着けるのに驚いた。
- ・カンガの多様な着方を試してみたい。1枚の布が色々に変化するのが面白い。
- ・夫婦や恋人の間でさりげなくスワヒリ語のメッセージを送るなんておしゃれだと思う。
- ・自分たちも岡山弁をあまり使わなくなってきたいるが、心を伝えられる言葉を持っていることは大切だと思う。
- ・シンガポールは英語の使用によってアイデンティティが揺らいでいると学んだけれど、ケニアはどうかのだろうか? でも、進歩していく為には英語が出来たほうが絶対有利だと思う。日本人は英語で苦労しているの

で、むしろうらやましいと思う。

- ・アリソンが書いていた「欧米人によって作られた、型にはまったアフリカのイメージ」について、1学期に読んだ時はよく分からなかったけれど、アフリカ人（ケニア人）に対する私の中のイメージもやはりステレオタイプだったと気付いた。彼女が言っているように世界中の人が偏見なしに対等に話し合うことが大切なのだと思う。

## 成果と課題

英語の授業の中での実践だったので、使える時間も限られ、何を伝えるべきか絞り込むことが難しかった。学校教育と言語事情に絞るはずだったが、自分が撮ってきた写真やビデオは出来るだけ多く見せたいし、エイズや貧困問題、日本人ボランティアの活躍にも触れておきたい、ウガリやギゼリの材料も買ってきたので作って食べさせたい、カンガやキコイも見せたいなど欲張るが故に、本当に伝えたいことが自分でも何か分からなくなってしまった。

1学期に生徒にケニアのイメージを尋ねたら、暑い国・黒人・野生動物・マサイ族・マラソン選手・貧困・マラリア・危険などの言葉をあげた。「暑い国」以外はどれも間違っているわけではないが、断片的な知識に過ぎない。私自身、現地に行く前と後では「百聞は一見に如かず」であるが、2週間でケニアの全体像が分かった訳ではない。教えることが出来るのは相変わらず断片的知識だけだ。ケニアについての情報は日本では少ないので、何を話してもどんな写真やビデオを見せても、生徒は興味を示したが、ケニアについて学びそれを自らの生活にどう生かすかが重要であろう。

「貧しいからかわいそう」というイメージしかもっていなかった生徒が、「貧しくても生き生きと懸命に勉強し、未来を夢見ている」子どもたちの姿を見て、今の自分を振り返ってみただけでも、成果はあったと思う。豊かな時代に生まれ育った日本人の生徒たちにとって、ケニアの貧困は遠くの自分とは無関係の事だったかもしれないが、授業を通じてその実態に近づきそこから何かを考えるきっかけが出来たとしたら嬉しい。

教科書（PRO-VISION ENGLISH READING 桐原書店）のLesson 6はシンガポールが独立後4

つの公用語の中で英語を重視する政策を採ったがために、国民の英語力はアップしたが、人口の8割を占める中華系の人々の言語や文化の維持に危機感があるという内容である。他のコースで使っている教科書（NEW COSMOS READING 三友社）のLesson 7はフィリピンではナショナル・アイデンティティを取り戻すために1974年から学校教育は英語でなくフィリピン語ですることになったという話であり、どちらも1学期に学習済みであった。

ケニアの場合、今後どうなっていくか、先のことはわからないが、子どもたちの英語力は少なくとも現在は日本よりケニアの方がかなり上である。LLの設備もCDやMP3などなくてもそんなことは関係ない。たとえ教科書が買えなくても、立派に英語教育は行われていた。ナイロビの日本人学校ではインターナショナルスクールに生徒を奪われない為に英語教育に力を入れているそうだ。梶川先生からも日本の英語教育の問題点を指摘された。言語の問題は「個人の」あるいは「国民の」アイデンティティにかかわる重要な問題である。ケニアも日本も今後どのような言語教育をするのがベストなのかしっかり考えなくてはならない。ケニアの学習は教科書の英文を現実味のあるものにしてくれた点で大いに成果があったと思っている。